

Ⅲ 北総生きものマップ

—里山に囲まれた街づくりをめざして—

北総生きもの研究会

はじめに

ガチャガチャ、クツワムシというキリギリス科の昆虫を、そのやかましい鳴き声にちなみ、白井の地元ではこう呼んでいます。8月もお盆を過ぎ、少し涼しくなった夜を迎える頃、雑木林のここかしこから、ガチャガチャという音が響きわたり、それはもうにぎやかなものでした。

そのクツワムシが少なくなっている、という話題が持ち上がってすでに10年近くたち、千葉県でも、神奈川県でも、埼玉県でも県の絶滅危惧種にリストアップされるようになりました。昔はどこにでもいたものだ、という古老のお話は、身近な普通種が次々と稀少な種に仲間入りしていったことを如実に物語る証言です。しかし、普通にどこにでもいた、ということは、たいていの場合、いつどこにいたのか正確な記録がほとんど残されていないということを意味します。

自然界で普通にいる生物というものは、その時代時代に人間が自然に働きかけて維持してきた、水田や畑、薪炭林などの里山の環境に生きてきました。今、私たちは、豊かな農産物を収穫する農地、水産資源に恵まれた豊かな湖や海洋環境、水資源を守る豊かな森林、そして魅力的な生き物に満ち溢れた世界を取り戻そうと、さまざまな努力を重ねています。その努力の一つに、身近な生物の現状を記録し、減ってしまった原因を突き止め、対処するという活動があります。稀少になってしまったかつての普通種、今はまだ普通にいる文字通りの普通種、そういう生物に注目し、かれらがいつ、どこに、どれくらいいたのかを記録に残そう、というのが、その活動の第一歩です。

なぜクツワムシは減ってしまったのでしょうか。そして、ウマオイ（同じ時期に鳴きだすキリギリス類）がいまだに健在なのはなぜなのでしょう。減ってしまった真の原因をつきとめることは、容易なことではありません。しかし、私たちは現状をできるだけ正確に記録し、将来に残すことで、原因を究明し、自然を賢く利用するやり方を学び、伝えたいと思っています。このような活動を始め、続けようと思うのは、そのことが、自然を持続的に活用し、資源を枯渇させない暮らし、紛争のない暮らしをするささやかな一歩の1つであると信じているからです。

ここに「北総の里山と水辺環境を象徴する指標種」として、私たちが選んだ12種の分布を、北総生きものマップとしてまとめました。これ以上自然を壊さず、生物を絶滅させない地域社会をつくりあげようという活動、それを私たちは、温暖化防止やごみ問題、里山保全や農業支援活動など、北総地域で多彩な活動を展開する多くの仲間と共に、北総里山クラブというまとまりに高めてきました。そのスローガンが、“里山に囲まれた街づくりをめざして”，というものです。私たちは、この生きものマップを、一部の好事家を喜ばすためだけの秘密資料にはしたくありません。生き物と触れ合うことのできる、住み良い街にしたい、と願う市民のための、その願いを共有する市民による身近な環境保全、その第一歩として活用していきたいのです。

北総生きもの研究会代表 長谷川 雅美

指標種	指標性	選定理由	調査のこつ	調査に適した時期
ウメノキゴケ	大気汚染状況	大気汚染に弱く、古くから指標生物として分布調査が行われてきた。	日当たりのよい位置に生育する樹木の幹や石仏の表面を探す	通年
コブシ	森林の状態	北総の落葉樹林を特徴づける樹木。千葉県内の分布は北総地域に偏っている。知名度も高く、北総地域のシンボルであるといえる。	3月下旬から4月上旬に開花し、遠くからでも非常に目立つ。開花時期に生育を確認するのが最も効率が275よい。	3月下旬から4月上旬
ホオノキ	森林の状態	森の中で低密度で生育するが、日本一大きな花と葉をつけ、印象深い樹木である。	葉の大きさから見間違えることの無い樹木。森の中では、地表に落ちている葉を捜してから上を見上げると探しやすい。	葉が展開してから落葉まで
クサボケ	在来草原	草原性稀少植物が生育する草原の指標種。花が美しく目立つ。根が深いので採掘圧に対して抵抗性があり、在来草地の保全を広くアピールするのに適当な種である。	開けた日当たりのよい草地に咲く。花と同時に葉や枝振りを覚えておけば、開花時期以外でも生息を確認できる。秋には非常に大きな果実が実る。開花しても結実するとは限らない。	通年、4月が適期
ヒグラシ	森林の状態	梅雨明けの朝夕にカナカナカナ…と特徴的な鳴き声で鳴く。大きな森では昼間から鳴く。	杉林に多いといわれるが、真偽の程は確かではない。	7月中旬以降
クツワムシ	森林の状態	比較的規模の大きな樹林地の林縁部などにしか生き残っていないようであり、近年減少が著しい種。ガチャガチャと非常に大きな鳴き声を出すことでよく知られているため、聞き取りにより過去の生息状況を知り、分布の変遷を推定することが期待できる。	林の中を通る農道を夜間車でゆっくりと走り、鳴き声で確認をする。鳴き声確認係りと運転手、位置の記録係と二人以上で夜のドライブをして分布調査を行う。	8月下旬から9月
カブトムシ	森林の状態	子供たちの人気者。カブトムシの生息する森は、学区に1箇所以上保全したい。そのためにも、カブトムシの生息する樹林地の条件を明らかにしたい。	幼虫の生息場所は堆肥場。樹林地だけでは生活が成り立たない。樹液の出るクヌギの木を探すのが第一歩。昼間スズメバチ、カナブンが樹液をなめている木に夜行く。	7月中旬から8月 幼虫探しは冬でも

指標種	指標性	選定理由	調査のこつ	調査に適した時期
クルマバツタ	在来草原	盛り土や切土されていない草地の指標種。草地の規模に関わらず、草原性稀少植物の生育する草地の指標種といえるかもしれない。	セイヨウタンポポとセットで分布調査を行うと、在来タンポポの生育地がいかに狭まっているか、実感することになる。	8月から9月
コガネグモ	餌の豊かさ	湿生、乾性を問わず草原によくみられた大型の造網性のクモであるが、近年の減少が著しい。	垂直の円網で、中央部にエックスの形に白い隠れ帯が特徴的。クモの腹部は黒と黄色の鮮やかな縞々模様。	6月中旬から7月
カワニナ	ホタルの生息指標	ホタル類の餌生物として著名な巻貝。この種が生育している水域はホタルの生息が期待できるが、かならずホタルが生息しているとは限らない点に注意すること。	湧水から流れ下る用水路、排水路を探す。水路の岸がコンクリートで固められていても生息しているので、探す場所をあまり限定しないほうがよい。	通年
ホオジロ	樹林地と草地の境界	白井市の市の鳥。田園地を代表する鳥類で、樹林地と農耕地がモザイクとなっている地域に多い。雄のさえずりが美しく、その声を楽しみながら田園を散策したい。	河川堤防のススキ草地から、果樹園の縁などさまざまな環境に生息しているが、共通しているのは開けた土地に散在する樹林という環境で、樹林地の内部には生息しない。	5月から6月
ヒバリ	草地	草地を代表する種であるが、ヒバリのほうが草丈が短く裸地の多い空き地を好み、田植え前の水田や畑でも繁殖する。さえずりを頼りに、見えない位置の草地を知ることができる。	姿を探すよりも鳴き声を聞き分けることで、生息を確認するほうが容易である。	4月から7月
ニホンアカガエル	RDB種	湧き水の豊かな湿田で産卵し、周辺の草地や林で生息するため 里山の水域と陸域の連続性を捉える指標となる。	林に近い日当たりの良い水田や湿地で 南風の吹く生暖かい夜に毎年ほぼ同じ時期に一斉に集って産卵する。卵の数を数えることで個体数を把握できる。	1月から4月



■ウメノキゴケ

藻類、菌類の共生体で大気汚染に弱いといわれている。



無料サイトより転写

■カワセミ

水中の魚類や甲殻類をエサとし、河原の土手や赤土の崖に営巣する。河川環境の豊かさの指標となる。



■シュレーゲルアオガエル

広い樹林と連続している水田がある環境が必要。



■ノウサギ

農耕地、林内に生息。夜行性だが食痕、糞などが見つけ易い。



■クサボケ

背が低いが、花が美しいバラ科の木。昔からの草原に生育。



■カブトムシ

幼虫時代は堆肥場で過ごし、成虫になると樹液を求めて林で生息。雑木林の循環を表す里山の代表。



■コガネグモ

大型の造網性のクモで、多くのエサがある豊かな環境の指標となる。
千葉県RDB Cランク



■クルマバツタ

草丈が低くて密度の高い草地を好む。草地の規模に関わらず、自然度が高い草地の指標となるバツタ。





■ホオノキ

森の中で低密度で生育するが、日本一大きな花をつける木。見つけると嬉しい木。



■ホオジロ

里山を代表する鳥で、樹林地と農耕地がモザイクとなっている地域に多い。千葉県鳥。千葉県の鳥。



■ヒバリ

草丈が低い草地を好む草原性の鳥。都市化が進み全国的に減っている。



■カワニナ

ホタル類のエサとなる巻貝。この種が生育している水域はホタルがいる可能性がある。



■クツワムシ

ガチャガチャと大きな声でなくことで有名だが、近年減少が著しく、動向が注目されている。



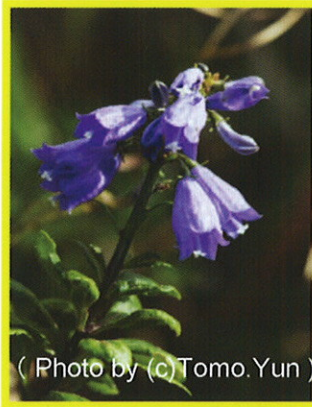
■ニホンアカガエル

産卵期の冬に水があること、周囲に林や草地があることが生息の条件となる。千葉県RDB Aランク



■ヒグラシ

梅雨明けの朝夕にカナカナカナ…と特徴的な鳴き声でなく。林や森がなくなるといなくなる。



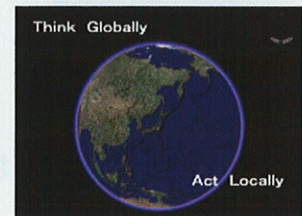
(Photo by (c)Tomo.Yun)

■ツリガネニンジン

主に里地に見られる植物で、人が定期的に草刈りをすることで保たれている草地に多く生育。



足元の身近な自然は地球につながっています



北総生きもの研究会

指標種：ウメノキゴケ *Parmotrema tinctorum*

調査期間：2006年2月～2007年3月

調査方法：ウメノキゴケの有無（有● 無○ 移植した木に生育□）



気づいたこと

- ・谷津沿いにウメノキゴケが生育していることがわかる。
- ・日当たり良好な環境に生育
- ・ニュータウンの造成時に移植された木とともにウメノキゴケが持ち込まれ、定着したと考えられるものもある。
- ・ウメノキゴケは、平塚・神々廻・谷田・武西に多く生育が確認できた。
- ・折立・名内（工業団地に囲まれている）では、ウメノキゴケの生育が確認できていない。

記録取りまとめ：森田考恵

調査担当：原田浩・相馬なおみ・森田考恵

指標種：クサボケ *Chaenomeles japonica*

調査期間：2005年4月・2006年12月

調査方法：開花・結実個体の記録（○）



気付いたこと

良好な草原の指標種という扱いであったが、落葉広葉樹林の明るい林床での確認もあった。結実の見られる場所とそうではない場所があり、その違いにどのような環境要因が関与しているのか、興味を持たれる。

記録取りまとめ：米田豊子・緒方恵子

調査担当：長谷川雅美

指標種：ホオノキ *Magnolia obovata*

調査期間：2005年4月・2006年12月

調査方法：目視調査 (○)



気付いたこと

個体がまとまって生息している場所がほとんどなく、散在していた。

記録取りまとめ：相馬唐代子

調査担当：岩本洋子・坂巻真由美・相馬唐代子・相馬なおみ・森田考恵・寺園直美・
長谷川雅美

指標種：クルマバツタ *Gastrimargus marmoratus*

調査期間：2006年4月～2007年3月

調査方法：目視（目撃●）



気付いたこと

調査が十分に行えず，分布の傾向はつかめていない。

記録とりまとめ：高野義教

記録提供者：森田考恵・相馬なおみ

指標種：クツワムシ *Mecopoda nipponensis*

調査期間：2005年8月・2006年8月

調査方法：鳴き声と姿の記録（○）



気付いたこと：

市内の生息確認地点は折立と谷田の2ヶ所にすぎない。近隣市町村でも、船橋市の県民の森、印西市の武西、鎌ヶ谷市の栗野の森と少なく、それらはいずれも広い森林（少なくとも10ha以上）であった。

記録取りまとめ：長谷川雅美

調査担当・情報提供：坂巻真由美・長谷川雅美

指標種：カブトムシ *Allomyrina dichotoma*

調査期間：2006年7月～9月

調査方法：成虫の観察 (●)



気付いたこと

思ったよりも確認場所が少なかった。神々廻の弁天池周辺では、クヌギの大木の根元を掘り込んで、クワガタムシやカブトムシ採集を試みたあとが散見された。梨園の堆肥置き場にも幼虫が見つかることがある。農家の裏山を含めこれから詳しく調べる必要がある。

記録取りまとめ：中條壽雄

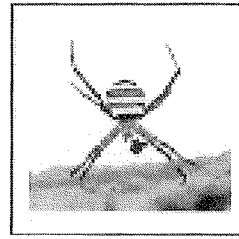
調査担当：森田考恵・相馬なおみ・長谷川雅美

指標種：コガネグモ *Argiope amoena*

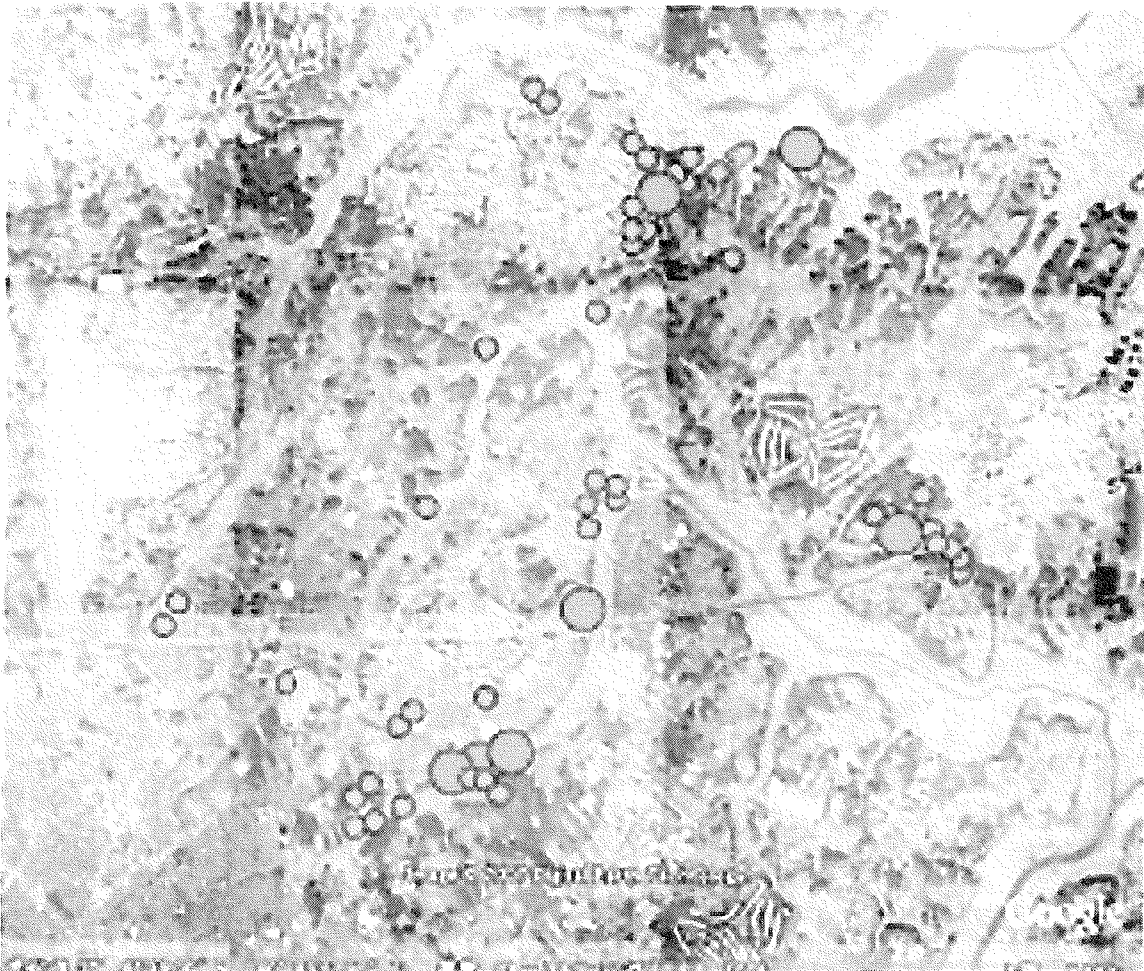
調査期間：2006年4月～2006年8月

調査方法：コガネグモのカウント調査

基本的にメスをカウントするが、幼体でも確実なもの、しま模様が出たもの等は、カウントの対象にする



(● 1～9 個体確認, ● 10 個体以上確認)



気付いたこと

コガネグモは、谷津近くの草地に多く確認できた。ヨシ・ススキとセイタカアワダチソウが混生している休耕田に特に多く、続いて草地と連続した林の林縁部、水田の土水路などで確認された。一部住宅地でも幼体を確認されている。草丈の低い草地よりも、高茎草地でのカウント数が多い。日付などの記録がはっきりしているデータのみをあらわしたが、調査員が目撃した情報をまとめると、コガネグモの生息は白井市のかなりの範囲に及ぶ。

記録取りまとめ：相馬なおみ

調査者：森田考恵・内田正吉・相馬なおみ

指標種：カワニナ *Semisulcospira libertina*

調査期間：2006年3月～6月，2007年3月

調査方法：カワニナの有無（絶滅● 5以下 10以上 多い● 有○）



気付いたこと

- 名内・平塚では，カワニナの生息が広範囲で確認できた。
- 名内・平塚の水路では，カワニナが連続して見られる。
- 名内では，湧水が染み出るところで見られる。
- カワニナは土水路，コルネット管，三面コンクリートでも生息可能である。
- カワニナは，川底が泥・砂でも生息が可能である。

記録取りまとめ：森田考恵

調査担当：相馬なおみ・森田考恵

指標種：シュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii*

調査期間：2005年5月～2006年10月

調査方法：鳴き声センサス 幼体，成体の目視確認 (○)



気付いたこと

鳴き声は、林縁部に接する流れのない水場・水田での確認となった。幼体は、水田全部にはではなく、いる水田、いない水田がはっきりしている。シュレーゲルアオガエルの鳴き声のした近くの水田で幼体を確認されている。成体は林縁部に確認されている。調査地区が偏っているので、今後白井市内での調査が必要。

調査者：森田考恵・岩本洋子・相馬なおみ

取りまとめ責任者：相馬成光

指標種：ニホンアカガエル *Rana japonica*



調査期間：2006年2月～3月

調査方法：卵塊数カウント（絶滅● 50以下 100以上●）



気付いたこと

1980年代に記録されていた折立と複の水田ではなくなっていた。南山中学校のビホプには、富が沢ビホプから卵塊を1つ2006年3月に持ち込んだ。谷田のかも場はこの地域でも最大の繁殖地である。名内では少ないながら安定した卵塊数がある。しかし、どの場所もが場やビホプのように、水田耕作ではない水場にたよって生息している。

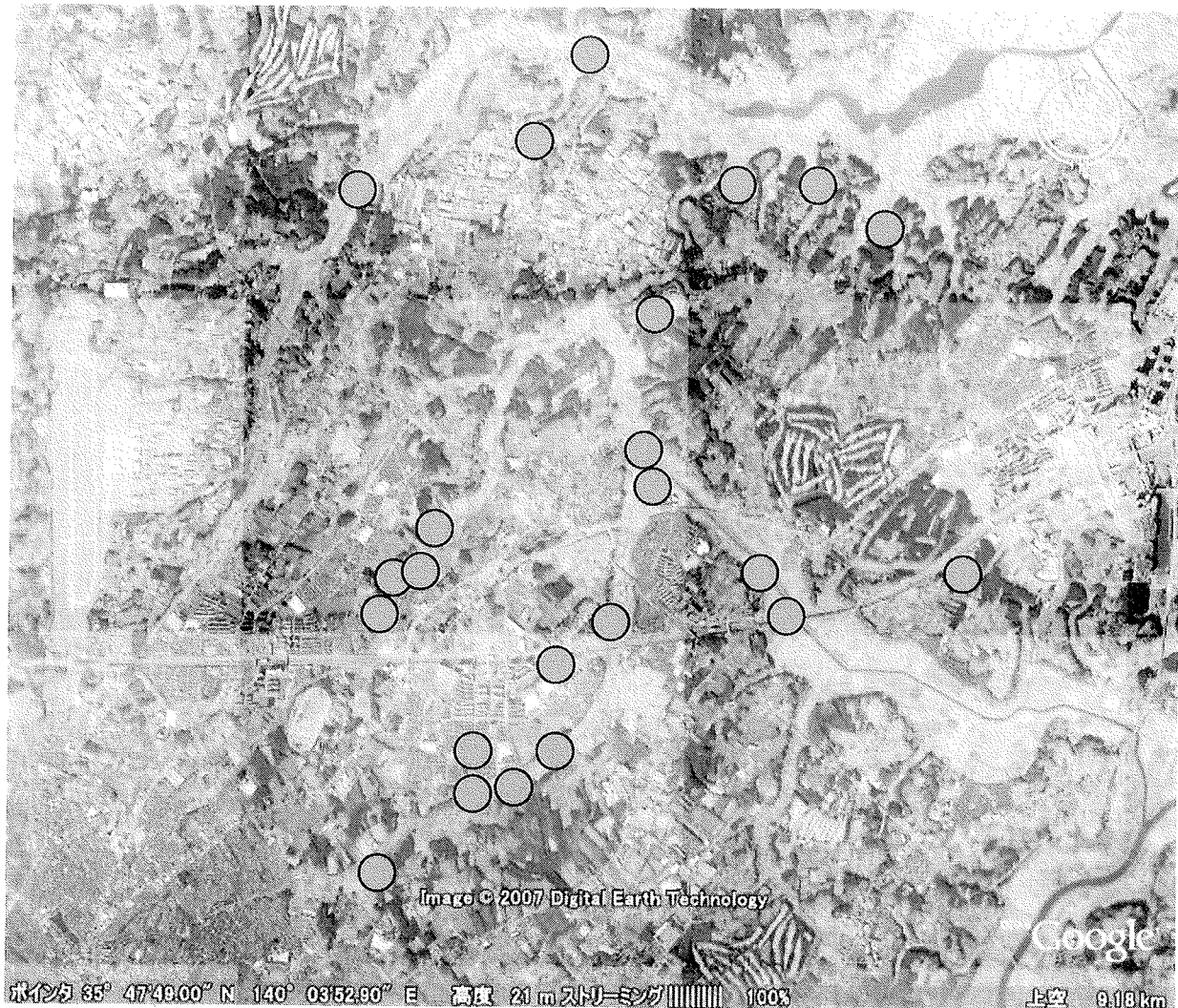
記録取りまとめ：森田考恵・相馬なおみ

調査担当：森田考恵・相馬なおみ

指標種：カワセミ *Alcedo atthis*

調査期間：2005年1月～2007年1月

調査方法：目撃記録（○）



気付いたこと

二重川，神崎川及び金山落としの下流部にかけては，満遍なく生息が確認されているが，金山落とし上流部の確認がない。

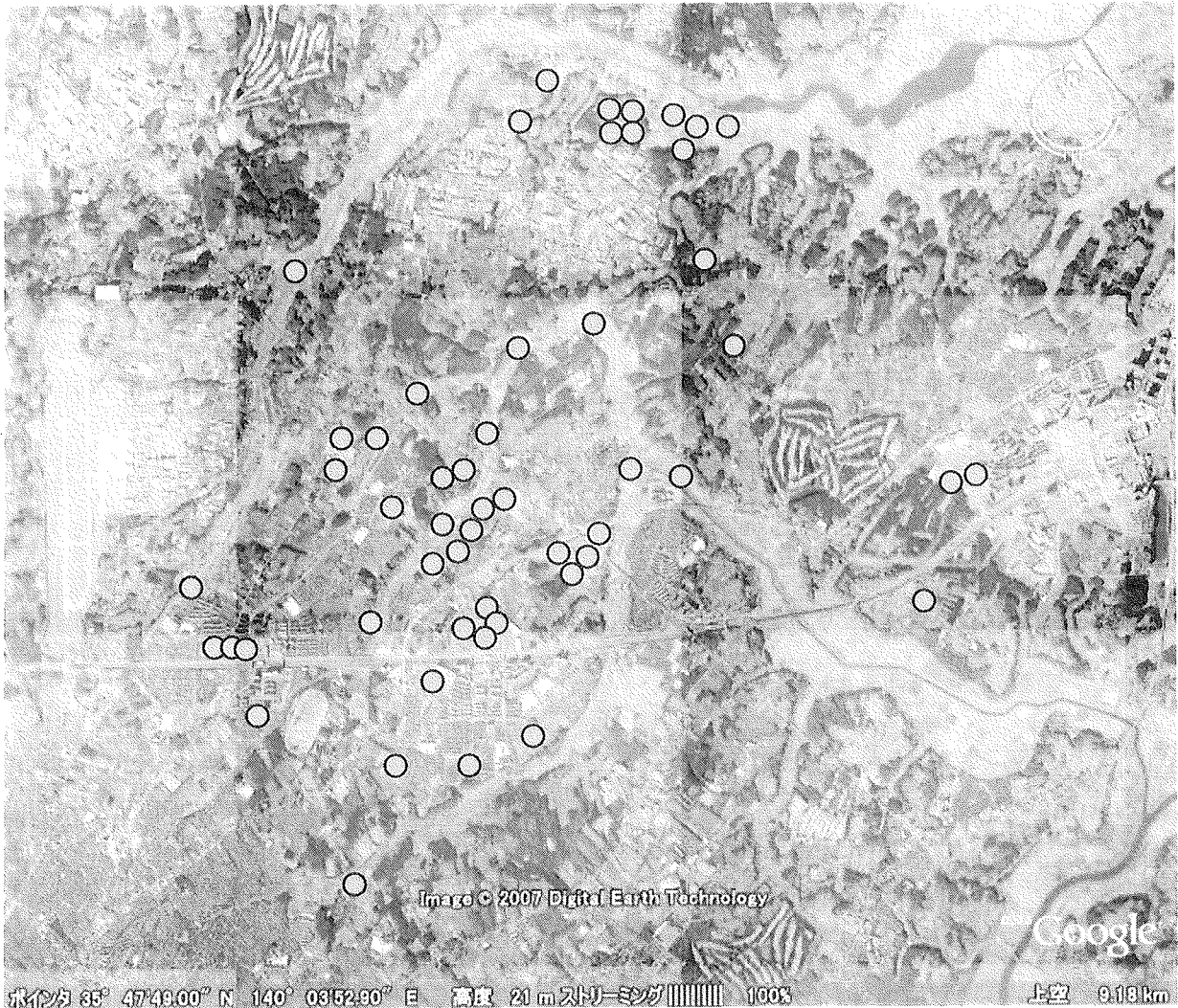
記録取りまとめ：斎藤昭夫

調査担当：坂巻真由美・森田考恵・相馬なおみ・長谷川雅美

指標種：ヒバリ *Alauda arvensis*

調査期間：2005年4月・2006年12月

調査方法：さえずり個体（○）



気付いたこと

台地上の畑, 造成地, 草原が主な生息地であったが, 水が入る前の水田にも生息が確認された.

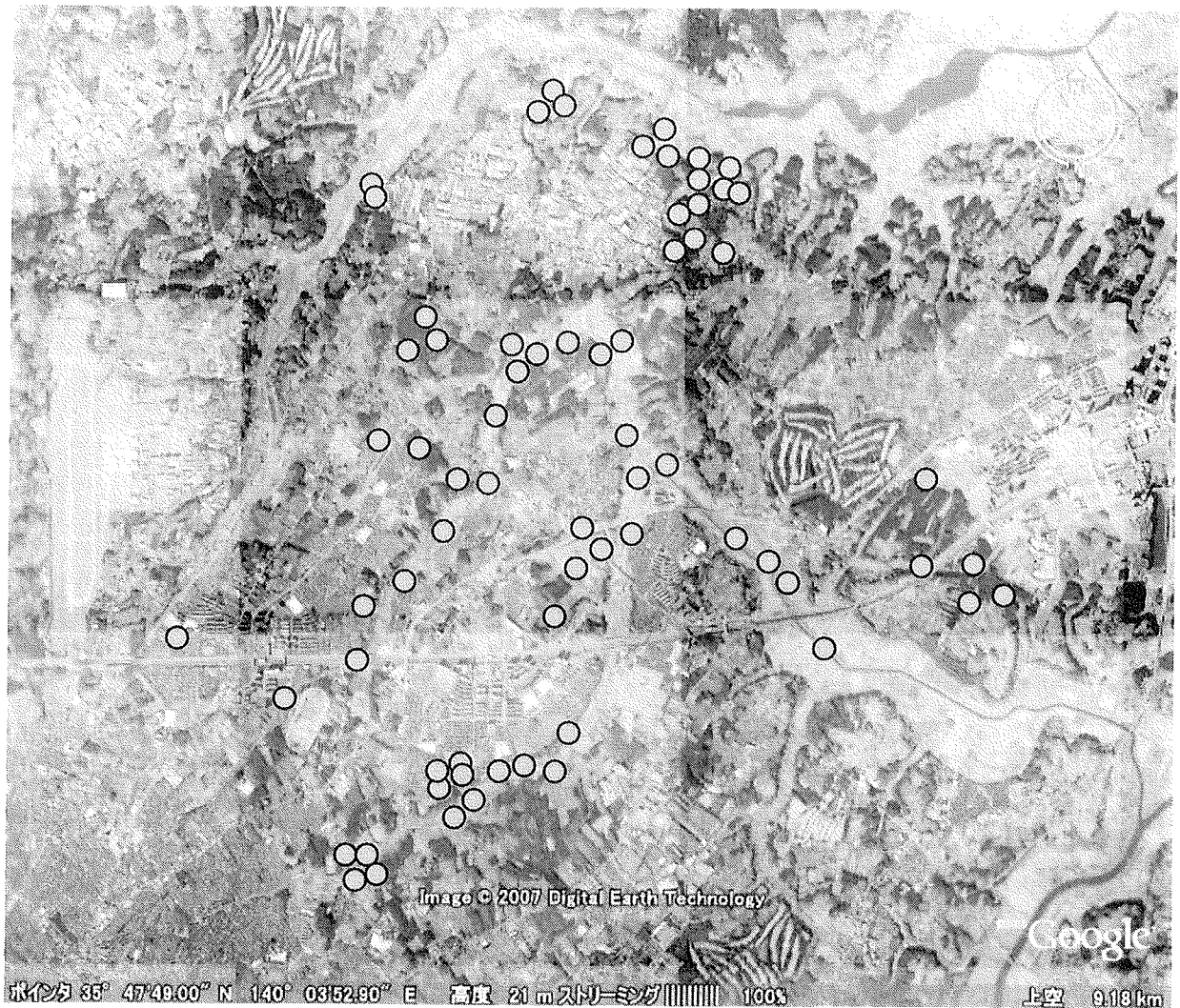
記録取りまとめ：堺初美

調査担当：長谷川雅美・相馬なおみ・森田考恵

指標種：ホオジロ *Emberiza cioides*

調査期間：2005年4月・2006年12月

調査方法：個体の目撃・さえずり (○)



気付いたこと

ニュータウンを取り囲む田園地帯，河川堤防を中心に生息が確認された。

調査取りまとめ：坂巻真由美

調査担当：森田考恵・相馬なおみ・長谷川雅美・坂巻真由美

指標種：ノウサギ *Lepus brachyurus brachyurus*

調査期間：2004年4月～2007年3月

調査方法：目撃およびフィールドサイン

(目撃●, フィールドサイン○, 轢死体●)



気付いたこと

ノウサギ(キュウシュウノウサギ)の生息情報は、白井市のほぼ全域で得られている。生息情報は、谷津田、斜面林、耕作地で多く得られているが、住宅地周辺での情報(轢死体を含む)も少ない。

記録取りまとめ：高野義教

記録提供者：森田考恵・相馬なおみ・長谷川雅美・寺園直美・坂巻真有美・相馬唐代子